

協働のまちづくり推進計画検討委員会（第2回）会議録

日 時	平成22年7月13日（火）14:00～17:00
場 所	富里市役所本庁舎3階第3会議室
出席委員	久野直衛委員長，長徳實義副委員長，石井壽恵子委員， 大木寿美子委員，加藤千春委員，小泉喜市郎委員， 小林隆夫委員，竹生勳委員，長谷正行委員，二上正栄委員， 荒野峰之委員，斉藤榮子委員，鈴木勉委員，高澤忠彦委員， 新井正美委員，榊原孝委員，長谷川敏彦委員，堀越等委員， 森秀樹委員 （欠席1名：片貝勝也委員）
アドバイザー	千葉大学法経学部准教授 関谷 昇氏
事務局	総務部長，総務部企画課長，企画課企画調整室長， 企画課企画調整室員
説明員	総務部総務課自治防災班副主幹 消防本部総務課警防班主査補
傍聴者	2名

〔会議次第〕

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 委員紹介（第1回会議欠席委員自己紹介）
- 4 アドバイザー紹介
- 5 議 題
 - （1）市内における協働の現状と課題について（その1）
 - ・「地縁組織について」総務課自治防災班
 - ・「消防団について」消防本部総務課
 - （2）（仮称）協働のまちづくり推進計画について
- 6 その他
 - （1）座談
 - （2）その他
- 7 閉会

〔 会議概要 〕

開 会	
委員長	会議録確認委員の選出（加藤委員，小泉委員） （ 1 ）市内における協働の現状と課題について（その 1 ） ・「地縁組織について」 総務課自治防災班
説明員	資料 1 により説明 ・「消防団について」 消防本部総務課警防班
説明員	資料 2 により説明
委員	今年第 1 1 分団で消防ポンプ自動車を購入予定とのことだが，毎年 1 台ずつ古い順に購入されているのか。
説明員	年式の古い順に行っているが，買えない年もあり，どんどん古くなっている状況。市の財政状況も厳しく，昨年度は消防本部のタンク車を購入し，今年度は消防団の車両ということで，整備計画はあるが，消防車両は高額なので，すぐに購入できないのが現状。
アドバイザー	消防団員は，特別公務員の身分だが，実際はボランティアに近い状態だと思う。身分上の違いと実情について聞かせてください。
説明員	身分は非常勤の公務員で，年額の報酬がある。また怪我をされた場合，公務災害も対応できる。退職時には，退職金が，階級と年数により金額は違うが，国で定められている。地区での行事参加等もあり，ボランティアでやっていただいているのが

委員	<p>現状。</p> <p>分団員の人員確保の面から，地域の防災組織みたいなものが，消防活動等に参加していけるような可能性はあるか。</p>
説明員	<p>消防団員は，規律訓練，その他団員の研修・訓練等があります。消防団と自主防災組織が一体となった訓練は，今後区内の話し合いで進められるとは思いますが，消防団と市民が，一体になって安心・安全なまちづくりというのは今後大事ではないかと思う。</p>
委員	<p>テレビ等で，企業で，企業内に自主的な消防隊みたいなものを組織しているのが紹介されているが，市内にそういうところはあるか。</p>
説明員	<p>市内にはない。条例で，市内に勤務している方も消防団員になれるので，勤務が市内で市外に住んでいる方が5名いる。</p>
委員長	<p>市内の企業で，自衛消防隊みたいものを持ったところはないか。</p>
説明員	<p>市内にはない。</p>
委員	<p>住民は消防団のことがわかっておらず，消防費の意味合いをわかっていない。区費と消防費をどう説明していいかわからない。</p>
説明員	<p>消防団と区の消防費に関しては，地域によって違うので，消防本部としては立ち入っていない。</p>
委員長	<p>市内に約400名のボランティアの方が協力していることを理解できる一般の人は少ない。協働のまちづくりの中でもっ</p>

<p>説明員</p>	<p>と理解をしていただきたいと思います。それから「顔が見える活動」ということで考えていけたらと思う。</p> <p>災害救命でドクターカーが入ったと思うが、その件について、説明を願いたい。</p> <p>日医大北総病院にドクターカーが配備された。県内にはドクターヘリが北総病院と君津の病院に2機、配備されており、基本的に日中はドクターヘリが対応している。しかし、夜間や荒天時、ドクターヘリが飛ぶことができないときにドクターカーに医師が乗り込み、どこかのコンビニ等をドッキングポイントにし、そこで医師が救急車に乗り込み、救命対応するというのが始まった。</p>
<p>委員長</p>	<p>防災だけでなく、救命の部分でも富里市内で民間事業者と連携が始まっているということをお紹介させてもらった。</p>
<p>委員</p>	<p>「まちづくり」、「協働のまちづくり」という言葉は広がってきているが、具体的にどういうことなのかという部分がかみにくい。</p> <p>今回、安全・安心という部分では、有意義だと思うが、防災に限らず、まちづくりを推進していくのに、現状を踏まえてどういう課題を市が問題意識として捕らえているのか。例えばNPOの育成の問題もあると思う。これからまた別のものが出てくるのかどうか。そのあたりはどのように考えているのか。</p>
<p>委員長</p>	<p>これから推進計画を検討していくにあたって、クリアしていかなければいけないことだが、今日は、代表的な事例の一つとして、住民組織と消防団の事例の説明で、一区切りしたい。</p>
<p>委員</p>	<p>他の事例でも、お願いしたいと思う。</p> <p>～ 7月8日に実施された任意の勉強会について報告～</p>

副委員長

7名の委員が参加した。「協働のまちづくり条例」の条文そのものの理解したうえで、具体的に何をしていたらいいのか具体的な部分が見えないという声があった。そういうところからスタートし、まず自分の思いを口に出すということから始めた。条例が煮詰まる段階で、いろいろな市内の具体的な課題を整理し、条文化していった経緯はあるが、参加者で合意したことは、条例があり、何をすべきなのかを検討するのではなく、我々がそれぞれの問題を抱えたときに、解決していくために行政と住民が一緒になって動きやすい、あるいは動ける環境づくり、担い手づくりなどを検討する。その結果として、こういう条例が必要だったというような理解はできたように思う。

(2)(仮称)協働のまちづくり推進計画について

事務局

資料3, 参考資料1, 参考資料2, 参考資料3により説明

質疑なし